

## 4014 ママチャリ日本縦断の旅：鹿児島・鹿屋航空基地史料館

～～今回、訪ねたかった4箇所～～

鹿児島県：鹿屋航空基地史料館

鹿児島県：知覧特攻平和会館

長崎県：平和公園

広島県：平和祈念資料館

少し重い話だをご容赦。戦争は、久楽には、キーワードの一つ。避けて通れない。

親も選べない。時代も選べない。国も選べない。

雅号の<sup>げーぶる</sup>迎古は、自然、歴史、祖先、原点を大切に。良くも悪くも。

人生は選択と決断の繰り返し、と言いながら、もの心がつく前は、そうはいかない。

生母の顔も知らない。写真もない。男ばかりの三男坊。

戦争で代々の家業を廃業。親は銀行員に。小中学時代、6回の転居・転校。

いじめや別れの繰り返し。幼少の波乱は、いつまでも、心に残る。



鹿屋の夕暮れ



バブル後の50歳からの夢挑戦には、そんな心の背景がある。  
親父殿が残してくれた父系の歴史、後に判明した母系の歴史。認めないと前進できない。  
誰もが、好き嫌いにかかわらず、選べないことがある。人に歴史あり。

雅号の久楽は、少年よ、大志を抱け！ クラーク博士の言葉。  
映画「風と共に去りぬ」の原作は、マーガレット・ミッチェルの「明日は別の日」  
映画は、南北戦争後の、真っ赤な夕日を背景に、力強く、終わっている。



開戦に誕生。終戦は4歳。生家はあったが、事情があったのだろう、その後売却と記録に。  
小学1年生から、転居、転校の繰り返し。認めざるを得ない。  
後半の人生、丈夫に産んでくれた両親に感謝したい。もちろん、訓練もした。

こんな人生になったのは、生かされているのか、生きているのか。  
今となっては、そんな追求は、どうでもいい。出来る時に、出来ることを、今に全力投球。  
まだまだ、自称、現役。**元気発信**。受け止めは、相手が判断すること。

少し話が、重くなるので、この辺で・・・ 人には、いろいろな人生がある。  
特攻の飛行機も、この地から、飛び立ったと聞く。  
その夜、宿泊の商人宿のご主人から、夜遅くまで、お話を聞かせていただいた。脚下照顧。  
それにしても、ご縁なのか。鹿屋の夕暮れ、強く、印象に残った。